

カルシユの足跡を追って

◇32◇

若松 秀俊

宮田正信のノートから

ところでドイツ語の問題には、ちょっと首をかき上げるような話屈(きつ)しげるような話屈(きつ)な文章が少なくない。それを次週の時の初めに試験用紙を配る決心をした」という。この独訳答案の内容とノートに残っている紋切型

カルシユも楽しみつつ授業

講義録から

(下)

そのあとで前週提出した分に先生が丁寧に添削したものが、生徒の一人ひとりに返却された。その必要に応じて個人的に批評をもらった。生徒にとっては型にはまっただけの翻訳よりは、こ

文章を翻訳して差し出しる。例えば南ドイツの方々に先生は楽しんだくない話題を残していいことだろう。たまに「グー」などの評価をもら

最後に、調査に協力し、また数々の資料を提供してくれた。関係者に心より感謝の意を表すとともに、この大きな足跡を松江に残したフリッツ・カルシユ博士が、人々の公平な目の高さから評価されることを心より願って筆を置くことにする。

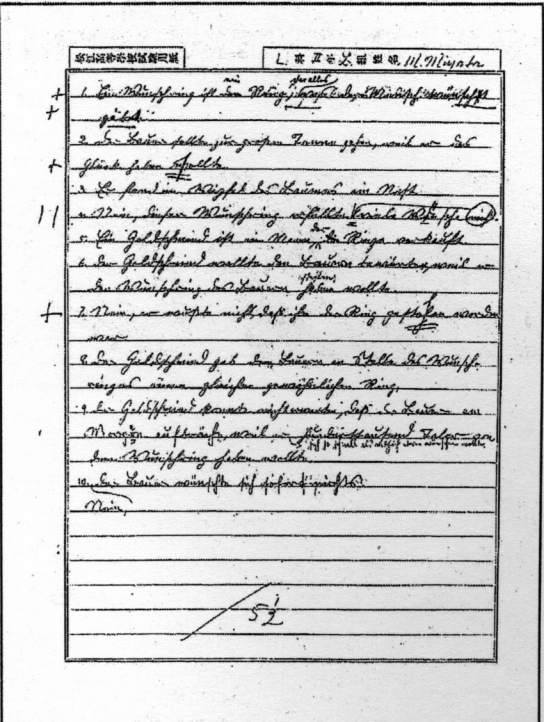
しかし、これが実際の大学入試にどれほど役立ったのかは何とも言えない。それより第二学年か

その他、このノートの者あてに送られた九期文の宮田正信の書簡と、電話などの会話の内容

ご支援を賜った増田義哉、遠藤捨雄、田島康弘の三氏の真(めい)福を心より祈りながら、本シリーズをひとまず終える次第である。

文中敬称略(おわり)

カルシユの添削が施された宮田の答案



彼がこの四月に逝去したことを大阪の同窓会より、間接的に知らされた。宮田が今ごろ天国で、生前から慕っていたカルシユと眼鏡の縁に手をやりながら、遠い昔の日々を語り合っている姿が目

ご支援を賜った増田義哉、遠藤捨雄、田島康弘の三氏の真(めい)福を心より祈りながら、本シリーズをひとまず終える次第である。

文中敬称略(おわり)